

里山倶楽部 自然農場日記

自然農場の鈴木です。今号よりこの「ちゃこーる」に凶々しくも投稿させていただきたいと思います。どこまで続けられるか分かりませんが一人の百姓の気ままな思いを書かせていただきます。皆様応援よろしくね。そして「違うだろ」とか「こうやったほうが良いのでは?」とかありましたらこの紙面に是非公開してください。

前回報告しましたが、私が里山倶楽部にお世話になったのが去年の5月。あっという間に年が変わってしまいました。その間、田植え、夏野菜の作付け、稲刈り、冬野菜の作付け。全く新しい河南町での農業生活が始まりました。

三重県伊賀上野で10年間有機農業をやってきた私がまず一番戸惑ったのは気候の違いはもちろんですが、一番の違いは「土」です。車で、1時間ちょっとの距離でありながら……。一言で言うと私が伊賀上野で耕作していた土はさらさら。河南町の土はコテコテ。

例を挙げます。河南町に有機農業のプロ福田さんという方がおられます。里山倶楽部を陰ながら応援してくださっているのでご存知の方も多いと思います。その福田さんが自然農場のサツマイモの収穫をユンボーを使って助けてくれた時のこと。「サツマイモの後にたまねぎを植えるんだっからついでにトラクターで耕してあげよう。畝はどういう畝にするのか?」と聞いてくるのです。急に畝立のことを言われたって一瞬何のことか分からず、「今日は耕すだけにしておいて、たまねぎを定植するときに畝立するつもり。」と言ったら福田さん「そんなことしてたらいつまでも土が乾かなくて畝立ができないぞ。」とのご宣託。びっくりしました。そうなんです。土が粘土質なので一度雨が降るとなかなか乾かずコテコテの状態になってしまうのです。だからトラクターで耕運すると同時に畝立までしてしまわないと駄目なんです。この例ひとつをとっていても農業技術の大きな違いがあります。おそらくそれらを自分のものにするには3年はかかるでしょう。でもコテコテの土でも立派な野菜ができるのが南河内の土の凄いところ。伊賀上野ではうまくできなかった人参、ほうれん草が立派に収穫できたんです。今後が楽しみ楽しみ……。

里山倶楽部自然農場日記

私が最初からやってきたのがEM自然農法です。今回はそのEM自然農法について紹介したいと思います。有機農業を実践されている農家はたくさんありますが、皆さんそれぞれやり方が違って、百花繚乱の状態です。そのたくさんある方法の中で、何故EM自然農法を選んだのか。それはある1冊の本が私に大影響を与えたのです。神戸の大震災の年（平成9年）に読んだ、琉球大学農学部教授比嘉照夫著の「地球を救う大変革」という本でした。そこには21世紀は微生物が地球を救うということが様々な角度から記述されていました。農業、畜産、水産、環境浄化、健康等。単純な私はころっとだまされ？てしまったのです。農業をやるなんて気は全くなかった私が、EMを知ったがためにあれよあれよとこの世界にのめりこんでしまったのです。

前置きが長くなってしまいました。では本題に入ります。EMとはE f f e c t i v e M i c r o - o r g a n i s m s =有用微生物群のことです。乳酸菌、酵母菌、光合成細菌、糸状菌等、放線菌等の微生物の集合態です。比嘉照夫の功績は、微生物はそれぞれ独立してしか存在しないというそれまでの学会の通説を覆し、様々な微生物を一緒にして活用したことでした。比嘉照夫が若いころ、沖縄でみかん栽培での化学肥料や農薬の研究をしていました。ところがあまりの薬漬けで体を壊してしまったのです。このやり方では未来がない。何か他の方法がないのかと研究した結果が、微生物の助けを借りれば無農薬栽培が楽にできるということでした。土中に微生物がたくさんいれば病気や害虫にも負けない生命力旺盛な作物ができるのです。作物は根から直接牛糞や鶏糞等の有機物を摂取するわけではありません。土中にある有機物を微生物が分解し、それが微生物のエサになります。その微生物が出すミネラル等を作物の根が吸収するのです。比嘉照夫は次のように言っています。「作物にとっての良い土とは微生物がたくさんいる土。極端に言えばぬか漬けのぬか床のような土。そのような土を発酵合成型土壌と言う」 次回は私がどのようにEMを農業に取り入れているかを具体的に書こうと思います。

来月に続きます。

お客様からのお便り

農場見学どうもありがとうございました。娘のアレルギーが見つかったから、食べ物に気をつけるようになり、今も完治はしていませんが、食べ物の力をいつも感じさせられています。里山の田んぼは本当に美しく雪がちらつく風景を子供達に必ず残していかなければ・・・と強く感じました。改めて「農」に関わりたいと強く思いました。これからもご迷惑おかけしますがよろしく願いいたします。

M様より。

生きていく上で食べ物が一番大事ですね。農業は直接それに関わる大事な仕事です。Mさん、是非「農」から離れないで下さい。横尾の棚田でのたこあげ、楽しかったですね。Aちゃん、Kちゃんによろしく。

鈴木

里山倶楽部自然農場日記

EM運動（あえて運動と言わせていただきます）の原点は家庭から出る生ごみをEMで処理して環境に貢献し、その生ごみを有効に活用することでした。ご存知のように生ごみは焼却処分するとダイオキシンが発生し、それを少なくするためには高温処理しなければなりません。当然炉の寿命も短くなります。ところがEMを利用すればやっかいな生ごみが次のような好循環に生まれ変わります。生ごみをEMで発酵させる→それを畑の肥料として利用する→できた無農薬の野菜を生ごみを出した人に分ける→繰り返し……。これはほんの一例ですが、生の動物の糞尿を堆肥化したり、悪臭を取り除いたり……。様々なところで社会にとって有害な物質を有益な物質に転換しています。

では私はEMを農業にどのように利用させていただいているかお話しします。自然農場の耕作面積が広いので家庭から出る生ごみでは足りません。また現在、そのような回収システムもありません。そこで、米ぬか、油かす、魚粉をEMで発酵させたボカシを利用します。このボカシは嫌気発酵させて作るので一般の堆肥をつくるような「切り返し」をする必要がありません。それを畑の中に混ぜるだけです。EM自然農法の特徴は畑に腐ったものは絶対入れません。世の中の物質は発酵するか腐敗するかに分かれます。発酵は善玉菌が優勢な社会。腐敗は悪玉菌が優勢な社会です。では発酵しているのか、腐敗しているのかを見極めるには……において判断します。土は人間の食を生み出す「神聖な母体」です。そのようなところに腐敗物質の投入は絶対許されません。ですからよく利用されているコンポストは使いません。発酵した良いにおいの物質のみ利用します。

また時々ですがEMの原液を20倍に拡大培養した液を畑に散布します。有機農業での微生物資材はEM以外にもいろいろありますが、拡大培養するノウハウを公開しているところはないと思います。EMの原液は1リットル2100円。それを20倍に増やすことができます。42000円の価値に変身します。逆に計算すると1リットル105円。それを500倍から1000倍に薄めて散布するわけですからコストはただのようなものです。

なぜわざわざEMを使用しなければならないのか。自然界にも土着の微生物

物がたくさんあるではないか、という質問をよくいただきます。本来ならばそのとおり。何もわざわざEMなんか利用する必要もないのです。でもあまりにも私達のこの世界の環境が悪すぎます。天からは酸性雨や黄砂等。土は化学物質で汚染され息も絶え絶えの状態です。人間の力も少し借りようということです（光合成細菌がポイント）。もう一つよくある質問。そんなに良いならなぜもっとEMが広まらないのか。う～ん、分かりません。でも言えることは農業経験の全く無い僕のようなずぶのしろうとが、農業を始めて10年以上一回も化学肥料も農薬も使わずにやってこれたのもEMのお陰だと思っています。何よりもお客様が美味しい野菜ですನೆと言ってくれます。そして有機農業をやっている僕の仲間達でEMを知らない人はいません（EMを使用しているか否かは別にして）。

長々とEMのことをお話ししてきましたが、文章ではとても細かく説明できません。もっと知りたい方はいつでも鈴木に声をかけてください。

お客様からのお便り

野菜、届きました。ありがとうございます。家族は3名です。野菜は好き嫌いはありませんので、選別はそちらにお任せします。毎回何が届くか楽しみです。今後ともよろしく願い申し上げます。

A様よりのFAX

お野菜とっても美味しいです。いろいろなお野菜楽しみです。大根、人参など、できれば葉っぱ付が嬉しいです。

F様よりのTEL

里山倶楽部自然農場日記 5月号

自然農場はお客様との関係を一番大切にしています。私達が一生懸命気持ちを込めて栽培した野菜が日本のどこの方が食べたのか分からないのは耐えられません。顔と顔が、心と心を通じあえるお付き合いをしたいのです。そのため当農場ではセット野菜を通じてその目的をかなえようと決めました。

ところがそのセット野菜が簡単ではない。今月はそのセット野菜、とっても苦労しました。いや、今も苦労しています。ご存知のように3月、4月は冬野菜が終わって夏野菜への移行期、端境期にあたります。分かっていたこととはいえ、準備が不足していたのが原因で野菜の種類が少なくなっていました。そのため一部のお客様には大変なご迷惑をかけてしまいました。来年はもう少し工夫したいと思っています。

でも苦しい中で助け舟もありました。里山の恵みさん達です。ふきのとう、つくし、ノビル、たけのこ、やまぶき等の山菜。そして里山のお花さんたち。おかげさまで、一般的なセット野菜と一味違うセットになっているように思います。今後も里山の恵みを皆様にお届けするよう努力してまいります。応援してください。

今月はお客様より励ましのお便りがたくさん来ましたのでそれらを紹介させていただきます。暖かいお言葉の数々、感謝、感謝です。ありがとうございます。

お客様のからのお便り

前回のしいたけ、とてもおいしかったです。焼いておねぎをのせてぼん酢でいただきました。ふきのとう味噌をつくったら娘がパクパク食べてました。アトピっ子なので体のそうじのために体が求めているのかもしれない。レシピ役立ちました。お野菜のレシピでこの頃よく見るサイトは「ゆるベジなキッチン」というもの。さとうや肉、卵など使わない、それでいてお手軽な料理方法がたくさんでていました。ちゃこーるをみていたら、娘達が鈴木さんの記事に大喜び。また4月の予定でいけそうなものがあれば教えてください。（M様よりのメモ）

先日はお世話になりました。我が家に届けられる有機野菜が作られる畑や棚田、炭焼き窯の見学、また河南町の里山を守ってこられた久門さんのお話を聞かせてもらったりで勉強になりました。またお昼にはごちそうになりました。これからもいいことばかりでなくて困難なこともたくさんあると思いますが、おいしくて安心して食べられる有機野菜を作ってください。次回のEM自然農法のお話楽しみにしています。里山のみなさんにもお体に気をつけてがんばってくださいようお伝えください。ありがとうございます。（Tさんよりのメール）

種まきで土に触れて、深い山の棚田を見学し、れんげや山桜にうぐいすの声・・・いつしか仕事や日常の色々を、すっかり忘れていました。いつもは休日に何をしたりリフレッシュしきれないのになあ。
鈴木さん大盛さんの働く姿を拝見したので、いただいているお野菜は更においしく大切になる！

お誕生パーティーまで参加させていただき、ごちそうさまでした。大変なこともたくさんあるだろうけど、みなさんいい顔してはったなあ。また邪魔にならないよううかがいたいです。ありがとうございます。（Kさんよりのメール）

本日はお忙しい中、ご案内頂いた上に、お土産を頂戴したり駅まで送って頂いたりとお難うございました。

とても楽しかったです！

「お米作りがしたいな」という漠然とした思いだけで伺ってしまいましたが、今日のように、まず出来ることから参加したく思います。

(Kさんよりのメール)

いつも多い種類の野菜を入れて下さり開けるのが楽しみです。切花も毎回入れて頂きありがとうございます。さっそくですがえんどう豆は栽培してませんか。あればスポットでお願いしたいのです。

(FさんよりのFAX)

人参をきったらすご〜く良いにおいが！「！生きててよかった」と思うくらい。ありがとうございます。(Kさんよりのメール)

美味しいお野菜ありがとうございました。竹の子は少し固く食べ難く思いましたが、ふきは葉もつくだ煮にして春を味わいました。山菜は大好きですのでよろしくお願ひ致します。

(TさんよりのFAX)

里山倶楽部 自然農場日記 6月号

いよいよ田植えの季節がきました。自然農場では約7反程の田んぼにお米作りをします。この7反なんです、全て里山の棚田。この棚田が問題なのです。

何が問題なのかって？これらの田んぼでお米作りすることほど無駄な労力を使うことはありません。まさに時間の無駄。労力の無駄。これらの田んぼで儲けようなんてとんでも無い話。まさに資本主義の正反対を地に行っています。

まず各田んぼの仕切りである土手の面積がやたら多いんです。耕作面積よりも土手のほうが大きい。ということはお米をつくる土地よりも草を刈る土地の面積のほうが大きい。極端な話、お米を作るための時間（自然農場は除草剤を使わない完全無農薬作りなので、夏場の草取りに大変多くの時間が使われる）よりも草刈り機で草を刈っている時間のほうが長い。田植え前に1回。それから稲刈りまで毎月1回。刈っても刈っても草は元気です。

次の問題はおぐら。田んぼに水を入れる前、あぜの周りにぐるりとあぜシートを張り巡らすのですがこれが大変な労力。これをしないとモグラが掘った穴から水がしみ出して田んぼに水がたまらない。水の通り道が大きくなると最悪の場合はあぜが決壊するはめに。でも困ったことにあぜシートを張ったからといって水がもれなくなるわけではありません。水を入れたとたん、下の田んぼにじゃんじゃんもれていくのです。そのときの対処方法は？原始的ですがあぜの柔かい所を探し出して足で踏み固めるんです。もぐらの穴をつぶすわけ。それが1ヶ所や2ヶ所じゃーない。

そしてイノシシ。以前はトタンで防いでいたんですが、今は賢くなったイノシシには通用しません。トタンの下を鼻でこじ開けたり、トタンの上から前足で押しつぶしたり。難なく田んぼに入って毎晩お米を食べる祝宴を開いてござる。それなら人間様は賢い。メッシュという鉄の格子で作られた柵を設置。こんな硬いものなら絶対大丈夫と思うのが人間の傲慢さ。やつは意図も簡単にメッシュの下を強引にへし曲げて進入。そして米を食べる宴。人間様も負けてはいません。イノシシごときに負かされてなるものかと考えたのが電気柵。田んぼの周りをぐるーっと電気コードを張り巡

らす。4000 ボルトから 5000 ボルトのショックにはさすがのイノシシも困った様子。さー楽しい宴というわけにはいかないようです。でもこの電気柵高いんですよ。1 セット数万円もするんです。何年かは使えますが初期投資の数万円は貧乏百姓には超痛い。さらにこの電気コードに草が接触すると漏電してただの針金に変身。毎日バッテリーの管理、草の管理をしなければなりません。これもとっても大きな無駄。

こんな無駄なことばかりをなぜするんでしょう。なんでわざわざそんな所でお米を作らなあかんのや。きっとアホだから。そして里山から恵みを頂くには里山に恩返しをしなければならぬからかな？ たでで恵みはいただけません。資本の論理が通用しない世界なんです。そこに里山倶楽部の存在価値があるのでしょうか。でも飯が食えてなんぼですよね～。

お客様からのお便り

のいちごめちやくちやおいしかったです。甘くて香りがよくて、ももみたいな味もしました。ラディッシュやレタスは明日の朝食でサラダにさせていただきます。水菜はお弁当用に茹でました。かわいい玉ねぎは何に使おうかな。大切に育てていただいた野菜をありがとうございます。

(Oさんよりのメール)

いつも新鮮な野菜を有難うございます。玉葱、キヌサヤ、スナックエンドウ、ラディッシュ美味しかったです。野いちご初めて食べました。次回が楽しみです。

(AさんよりのFAX)

送っていただいた野菜で、野イチゴのタルトと人参ケーキを作りました。総会でみんなに食べてもらいました。肝心の鈴木さんがいなくて残念！ミカンの花はキョウチクトウのような香ですね。先週のアザミもまだがんばっています。

(Nさんよりのメール)

お野菜が少ない時期だとのことですが、毎回とても楽しく頂いています。添えられているお花もステキで、とても嬉しいです。子どもたちも届いた箱で開ける時、ワクワクしていて開封してからもワイワイしています。これからもどうぞお付き合いの程よろしくお願い致します。

(Uさんより)

里山倶楽部 自然農場日記7月号

今週も田んぼのお話。里山倶楽部の田んぼは7反程あり全て化学肥料、農薬はもちろん除草剤も使わない完全無農薬のお米作りをしています。

このお米作りで一番の問題が田んぼの草です。なぜ草が問題なのでしょう？稲は田植えをすればしばらくして分けつを始めます。田植えのときは2～3本ですが分けつすると15本以上になります。こうならないと収量が増えず悲惨な結果になります。ちょうど分けつの頃は初夏。草もとっても元気なころです。稲の周りを草がビッシリおおってしまうと、稲さんは「苦しい、苦しい、なんとかしてー」と言って分けつできなくなってしまうのです。それを防ぐために慣行農法では除草剤をまきます。現代ではそれが当たり前。ところが私達はその草を手でとるんです。周りの農家の人から見たらまさに気違い農法と見られています。でも日本が戦争に負けるまではお米作りは家族総出で田植えをし、草を手で取り、稲刈りをしていたんです。ところがマッカーサーが化学肥料、農薬、除草剤という三種の悪器？を日本に持ち込んできたんです。それを使用した農家はビックリ驚愕。化学肥料をまくと野菜は短期間にぐんぐん生長します。でも弱点が。それは害虫や病気に弱い。そこで農薬を。草が出れば除草剤を。野菜の自然力や土の力を信用せず、人力で野菜を作るといふ農業が現代の農業の主流になってしまったのです。

そこで質問。化学肥料、農薬、除草剤の三つのうち人体に一番悪い影響を与えるのは何だと思いませんか？除草剤なんです。アメリカがベトナム戦争でベトコンを殲滅するために枯葉剤を空中散布したのは皆様ご存知ですよね。結果、ベトちゃんやドクちゃんがたくさん生まれてしまいました。その枯葉剤が現代の除草剤なんです。もちろん毒性は薄く人体に影響は無いというのが常識になっていますが???

話を元に戻します。里山倶楽部はそんな現代農業と相容れないごく当たり前の農業を目指しています。と、良い格好をしてはみるものの現実はとっても厳しい。夏の暑いときに田んぼに這いつくばって草をとる辛さはやってみないと分かりません。畑と違ってひざをつくことさえできないんですから。おまけに草の生長の方が早いため、取っても取っても追いつきません。7反もの田んぼを全て人力で除草することは不可能です。

そこで自然農場では去年から「布マルチ」を使ったお米作りを始めました。今年も横尾の田んぼ3, 5反分を布マルチ農法を採用。この布マルチ米について簡単に説明します。鳥取大学農学部教授「津野 幸人(つの ゆきんど)」が開発(現在は退官されています)した無農薬農法です。純綿2枚の間にモミ種を挟みそれを田んぼに敷設。後は水管理をして稲刈りをするだけ。いろいろ技術上の問題点はありますが(特に里山の厳しい環境の棚田では)、現在考えられる最も有効な農法だと思います。特徴を簡単に説明します。①雑草を抑える。②綿は自然に分解して土にかえり肥料になる③稲の根張りが浅く(弱点でもあるが)余分な肥料を吸わないためお米が美味しい。等々。何はともあれ雑草を抑えられることが最大の魅力なんです。さて今年はどうな結果がでるのか・・・楽しみです。

興味ある方は横尾の田んぼご案内しますよ。布マルチ農法現在進行形です。布マルチ農法(お布団農法ともいいます)とことん説明させていただきます。

お客様の声

6月号読ませていただきました。本当に大変な状態なんですね、田んぼは。私はこれまで田んぼのことは全く感知せずで、いずれ何とかなるんだろうと思ってました。私もなんだか辛いです。

(Nさんよりのメール)

お野菜ありがとうございました。野の花や山の自然と一緒にいただいた気がして元気ができました。一輪お部屋の真ん中にさすことで我が家にも自然がよみがえった気がします。

(Sさんより)

田植えの日程ちゃこーるでみました。仕事の都合がつかずに残念です。次回ぜひ楽しみにしています。前回のさくらんぼ、子供たちはとても喜びました。富田林でさくらんぼがなるなんて実は私もびっくりです。

(Mさんより)

今回はとっても嬉しいニュースから。里山倶楽部の中でとっても活発に活動されているグループの一つにキッズクラブというのがあります。毎月子供さんたちがたくさん集まって里山を通して自然からたくさんのお話を学んでいます。その子供達の世話をしているのが地元持尾の葛城さんご夫婦です。ご飯の食材に当農場の野菜を使っています。先日葛城さんの奥さんが、こう言ってくれました。「里山倶楽部のきゅうりがとっても美味しいと子供たちがぱくぱくまるかじりして食べてくれたんですよ」と。こんなに嬉しいことはありません。大人でなく子供が本物の味が分かってくれたことがとっても嬉しいんです。きっとこの子供達は里山のきゅうりの味を一生忘れないと思うんです。これが本当の食育です。

この季節になると必ず書くのが田んぼの除草のお話。それだけ除草剤を使わない我々にとっては大変な問題なのです。今回は草取りの苦労話ではありません。田んぼの除草対策には色々ありますがどれも決定的な方法はありません。自然農場では一部の田んぼに布マルチ（去年の月号に紹介しました。）を使った米作りをしています。この方法も布マルチ1ロールが20キロもあって扱うのが大変なこと（それで去年腰を痛めてしまった。）と、収量が悪いという欠点があります。

今年は全く新しい方法に挑戦しました。それはチェーン除草という方法です。一昨年の農業の月刊誌「現代農業」で紹介された方法です。それは2～3メートルの棒に自動車の冬の雪道のスリップ防止に使うテーンを付けて田んぼの中をひっぱるのです。それによって草の芽を抜くというやり方です。それを読んだ私はそんなやり方では苗が抜けてしまうのでは・・・とあっさり拒否していました。ところが去年の秋、里山倶楽部から近いところで無農薬無肥料栽培でイチジクを栽培しているFさんの所にそのイチジクを買い求めにいった時のこと。田んぼの話になり、Fさんがチェーン除草したらとっても効果があった。里山倶楽部も是非試してみなさいというお話。その話をお聞きして自分の勇気の無さに愕然としました。Fさんは挑戦したのです。

早速今年やりました。やはり良い結果がでました。チェーン除草をした田んぼは全部で16枚（広さは別にして）。そのうち手取りをせざるを得なかった田んぼは7枚。その手取りも草が少なくとっても早く終わりました。

チェーン除草であまり結果が良くなかった田んぼを分析したら次の二つが考えられます。

- ① 水が少ないと草が元気にのびる。特に棚田は水口に落ち葉や砂等が詰まり易いため水が入らず田んぼが乾いているのに気づかない場合が多い。
- ② 田植え後の苗の初期生育が悪いとたとえチェーンで初期の草を防止していても後から生えてくる草に負けてしまう。土の力があれば稲が生長して分けつが早く終わるから後から出てくる草は気にならない。でもこの問題は自然農法にとってはきつい問題ではあります。

来年の課題。

- ① 今年は田植え後5日目ごとに4回したが来年は4日目ごとにする。それでも稲は抜けないとのこと。
- ② そんなに稲は抜けませんが、やはり欠株が目立つ圃場もありました。原因はチェーンのせいだけでなくチェーンを引っ張る本人が苗を踏みつぶしてしまう。そのため来年は補植用に少し多目の育苗をする。
- ③ 地力をつける工夫をする。

来年は布マルチを止め、全ての圃場でチェーン除草にすることを検討します。

一つの光明が見えてきました。

里山倶楽部自然農場 9月号

里山倶楽部自然農場は有機農業にこだわります。有機農業の定義は化学肥料、農薬、除草剤を使用しないというのが最低の決まりです。ではなぜそんなものにこだわるのでしょうか。

化学肥料も農薬も除草剤も人類の進歩の過程で生み出されたもの。多くの方が便利なものは利用すべきという考えと思います。でも人類が生み出した科学は全て正しかったのでしょうか。便利であればマイナスの部分には目をつぶる。代表的なものが西洋医学の「薬」です。薬はその部分には作用するが、その反面大きな副作用があります。緊急の場合は止むを得ませんが、これを常用することは非常に危険です。でも人間は薬を利用したほうが簡単に結果が出るため、簡単に副作用のわなにはまっています。これも簡単便利の考え方がスタートのようです。

この、簡単便利が怖い。そのような簡単便利な怖い薬を使用しないためにはどうしたらいいか？それを使わなくても良い体を作ることなのです。そうなんです。有機農業の目的は人間が本来持っている「自然治癒力」を高めることなんです。

「医食同源」という言葉があります。食べ物は毎日3回以上口にする大事なものです。もっともっと毎回食べるものに注意をはらっていただきたい。現代の食生活は、本来人間が持っている自然治癒力を壊してしまっているのです。化学肥料や農薬で作られた野菜はミネラルのない野菜本来が持っている栄養分が非常に少ないと言われています。化学肥料農薬まみれのお米や野菜、添加物まみれの加工品。日本は先進国でも添加物には甘い国のようで、意識なしの食生活をしていると1年間で3キログラムくらいの添加物を体内に取り入れているとの事。これで癌や糖尿病、若年層の成人病にならないわけがありません。

こんなことを言う。「ほっといてくれ、わしの体や、あれこれ言わんといて。」という人が必ずいます。でもその人の「命」ってその人自身の力で作られたものではありません。私は神様よりお預かりしたものと思っていますが、百歩譲ってもご先祖様より与えられた命ですよ。その命、完全実行は難しいかもしれませんが、少しでも大切にすることを義務があると思うのです。もっともっと自分の与えられた体を大切にしたい。そのためにこ

そ有機農業があるのだと思います。

世の中には化学物質過敏症という方がたくさんおられます。化学物質が少しでも含まれている食べ物を食するとアレルギー反応を起こしてしまう。人はかわいそうと言いますが、私はなんと幸せな方よと思っています。現代は全てにおいて人類が作り出してきた簡単便利な文明全てを見直す時期にきているようです。政治も経済も全てひっくるめて……。自分達の食生活を見直すチャンス。そこに有機農業の意義があるのです。

お客様からのお便り

いつもお野菜ありがとうございます。このごろはお野菜が届くと子どもたちはトマトを奪い合うようにたべてます。お行儀が悪いですが、玄関で靴を脱いでケースからトマトをとって、そのままパクリッです。それでも自然農場のお野菜だから安心です。白いハスの花がきれいに開きました。だれも白いハスを見た事がなくて、びっくりです。おばあさんが仏壇にかざっています。これはレンコンの花ですか？ということはレンコンの畑はこんな風に花がさいているのかなあと想像しました。一度みてみたいなあと思いつつ……。8月は冷夏ではないかとニュースで見ました。お米や野菜に大きな影響がなければいいな……。と思います。

暑い中の作業は大変だと思いますが、これからもお願いします。

(M様よりのメール)

レポートリーが増えてます。

(M様より)

久しぶりの農園ありがとうございました。体力と相談、また行きたいものです。もっと近いといいのになーと。

(S様より)

ハスの花、美しいです。外で眺めるだけだったお花が家の中で咲いてるなんて素敵です。プチトマト、きゅうり、この野菜セットの依頼人(3才女兒)がいつも大変喜んでます。「ありがとう」やねと言っています。

(U様より)

里山倶楽部自然農場日記10月号

先日木村秋則著「りんごが教えてくれたこと」を読みました。りんごを無農薬無肥料栽培で作ることに成功した人でご存知の方も多と思います。農薬で家族が健康を害したことをきっかけに無農薬、無肥料栽培に挑戦。10年近く収穫ゼロになるなど苦難の末ついに成功。

無農薬、無肥料栽培に挑戦して7年目。挑戦しても挑戦してもりんごは1つとしてならず収入ゼロの年月が続いた。あまりの現実の厳しさに耐え切れず、ついに彼は死を覚悟して青森県岩木山に登ったのでした。

『えっ、こんなところにまだリンゴの畑があったのか』人の手が入らなくなって久しい見捨てられたリンゴ畑だと思ったのです。夢が幻か。もう自分が何のために山に登ってきたのかも忘れてしまいました。実はこの辺はドングリがはえる高さの限界でした。毎日、リンゴのことばかり考えていたから、ドングリの木がリンゴの木に見えたのです。

とにかくその木は自分のリンゴの木とは全く違い、虫の被害もなく、見事な枝を張り、葉を茂らせていました。私は魔法の木に一瞬にして目も心も奪われました。こんな山の中でなぜ、農薬を使ってないのにこれほど葉をつけるのか。なぜ虫や病気がこの葉を食いつくさないのか。その木の前に呆然と立ちすくんでいました。あたりはなんともかぐわしい土の匂いに満ち溢れ、肩まである草をかき分けると、足元はふかふかで柔かく湿気があります。雨のせいではありません。クッションを敷きつめたような感触です。そして突然稲妻に打たれたかのように、『これが答えだ』と直感しました。

「雑草が文字通りぼうぼうの生え放題、伸び放題で、地面は足が沈むほどふかふかしている。『やっぱり土が違うんだ。そうだ、この土をつくれればいい』。ほんわかと柔かく温かい土を手で握ってナイロンの袋に入れ、匂いが飛ばないようにきっちり閉めて持ち帰りました。

その土の匂いと自分の畑の匂いを比較して、山の土に近づけるにはどうしたらいいか、万策尽きたはずなのに、もうやることにそれこそ山ほど出てきました。

それまでは木の上のことしか見ていませんでした。雑草を刈り、葉の状態

ばかりが気になって、根っこの部分は全くおろそかにしていました。雑草は敵だとずっと思い込んでいました。それがとんでもないことだったと気づき始めました。まさにコペルニクスの転回と言っていいかもしれません。一般参考書に書いてあることで頭がいっぱいで、他を見ることができないほど視野が狭くなっていたようです。ここには浅はかな人間の知恵が入る余地はありませんでした。頭を空にして初めて、自然の生態を見ることができました。

ドングリの木の周辺に目をやると、そこは生命があふれ、すべてが循環しているのだと気づきました。ハマキムシのような害虫は見当たらないが、バッタやアリやチョウなど無数の生物それぞれが命をつなぐために互いに蜜に活動している。何一つ無意味なもの、邪魔なものなどない。ドングリの木もそれだけで生きているのではない。周りの自然の中で生かされている生き物だと気づきました。

そう思ったとき、ああ、人間も本来そうじゃないのかと感じました。人間はそんなことをとっくに忘れてしまっている。自分一人で生きていると勘違いしている。だから自分が栽培している作物も、農薬を撒くとどんなに自然の調和環境から逸脱して本来の姿から変質していくのか、少しも理解しないで突き進んできたのではないかと思いました。自分はこれまで何を勉強してきたのかと、この数年間のことを思わずにいられませんでした。」リンゴを、無農薬はもちろん無肥料で栽培する技術を確立した木村さんの壮絶な生き様を紹介しました。

お客様からのお便り

本日は自然農場の農作業を体験させていただき有り難う御座いました。あらためて農作業の大変さを実感いたしました。今日いただいた野菜早速ご近所におすそ分けしました。茄子は田楽にさせていただきました。美味しかったです。送っていただいた枝豆でのビールの味最高でした。これからどうぞ宜しくお願い致します。

(Aさんよりのメール)

レンコンの畑をぜひ見たいと思いつつ・・・もうすぐ9月です・・・。こ

の前の配達していただいたズイキ、さっそく調理しました。私も普段はあえて買う事のない野菜ですが、以外に簡単に調理できた事、それと子どもがばくばく食べていたのでびっくり。下の子が、「オッチャンにおいしかったって言ってな。」と書いてました。ありがとうございました。次回を楽しみにしてます。次回もあると嬉しいです。

(Mさんよりのメール)

すずきさんへ ずいきおいしかったよ (Kちゃんよりの手紙)
すずきさんへ 前のタコあげ、楽しかったです！いつも2週間に1回のおやさいおいしいですう～～ありがとうございます！Kが「ずいきちょお～うまあ・！」と書いていました！私はすずきさんがもってきてくれたやさいぜえ-んぶ大すきです！またよろしくおねがいします！ お手紙きゅうにすいません“！！”

(Aちゃんよりの手紙)

花が疲れをいやしてくれます。 (Mさんより)
草取りにと思うのですが、もう少し近ければといいわけに。ずいきものすごくおいしかったです。料理下手の私でもあのレシピで絶品に。息子にも好評でした。

(Sさんより)

里山倶楽部自然農場日記 11月号

8月中旬より続いた冬野菜の作付けがやっと目処がついてきました。以下にも説明しますがおよそ30数種類。

自然農場の基本スタイルは個人のお客様を中心にしています。有機農業の世界では大別して二通りのやり方があるように思われます。一つは少ない種類の野菜を大量に生産して有機野菜を扱っている専門業者に出荷する。例えばらでいっしゅぼうや、ポラン広場、大地の会、四つ葉等へ。このやり方は効率はとてもいいのですが、毎日毎日同じ種類の野菜を何百も袋詰めしなければならぬという単調な作業が永遠と続きます。そして何よりも丹精込めて作った自分の野菜を、どんなお客様が食べてくれたのかが分からない。もちろん美味しかったのかまずかったのかは分かりません。せいぜい業者から虫食いがひどいからとか、色が黄色いからとか、形が小さいからとかで返品されるのが関の山です。このやり方はまさに農業の工業化です。二つ目のやり方はたくさんの種類の野菜を作付けして一人一人の目に見えるお客様に提供する。その代わり生産が大変。少量多品種なので手間がとつてもかかり非常に効率が悪い。効率が悪いということは儲からないということ。でも自然農場はお客様とのお付き合いを大事にしたいのです。儲けた、損したという資本の論理から卒業したいのです。もっと大事なことがあるように思うのです。もちろんこちらも生きていかねばならないのでなんらかの利益はいただきますが。

では今年の冬野菜、どんな作物に挑戦しているかを紹介しましょう。冬野菜の怖いところは播種（種をまくこと）時期を遅らせると二度と取り返しがつかないということです。播種時期を遅らせてしまったり、芽出しに失敗したから、後でまき直そうとしてもできない野菜が多いんです。というのは日ごとに温度が低くなっていくので、遅く播種すると寒さのため成長しないからです。ところがなんとその失敗をやってしまいました。人参です。ご存知のように今年は8月10日頃から9月中旬まで雨が全く降りませんでした。特に人参はほうれん草と並んで芽が出にくい作物。冬の人参は8月中旬に播種しなければなりません。毎日毎日水やりをしたのですが

ほとんど芽がでませんでした。やばいと思ったときすぐまき直せばよかったです。もうすぐ出てくる、もうすぐ出てくるという未練が道を誤らせてしまいました。申し訳ありません、未練たらしい人間で。割り切れませんでした。今年の人参はたくさん提供できそうにありません。Yさん、本当に申し訳ありません。期待に背いてしまって・・・。

すでに畑にあるもの・・・ネギ、長ネギ、ワケギ、サトイモ、サツマイモ、レンコン、ナス、秋じゃが、やまいも。

播種したもの・・・赤玉ねぎ、早生たまねぎ、晩生たまねぎ、大根、雑煮大根、聖護院大根、二十日大根、かぶ、レタス、サニーレタス、人参、金時人参、春菊、年内どりキャベツ、春キャベツ、ブロッコリー、ほうれん草、小松菜、大阪しろな、なばな、チンゲンサイ、みずな、サラダみずな、白菜、晩生白菜、そら豆、

11月に播種予定・・・ウスイエンドウ、スナップエンドウ、キヌサヤエンドウ。

数えてみたら38種類になりました。どんなふうにも成長して皆様のお手元にお届けできるのかな～。楽しみにお待ちしております。

お客様からのお便り

まんじゅしゃげ（彼岸花とも？）とてもうれしかったです。みごとに全部咲いて小さな秋を楽しませてもらいました。シソもいい感じ、食べるのがもったいなく思いました。1つ1つのおやさいをゆっくり味わって食べられたらと思っています。

（Sさんより）

台風大丈夫でしたか？せっかくのお米や野菜がだめになったのではないかと心配です。テレビであっけなく橋が流されていく様をみたりして本当の自然の力はすごいなあとその力を感じました。あけび、ありがとうございます。とても立派なあけびにびっくりしました。子どもたちは「うわあ、幼虫みたいやあ」と大騒ぎしながらおそろおそろ口に運んでいました。Aちゃんは「あ、甘い」と笑ってました。Kちゃんは一粒食べて、「う～ん」

と言っていました。里山の果物は本当にじんわりおいしいです。前回の柿もやさしい甘さでした。でも色の薄いものは渋くてびっくり。あれは渋柿？熟すると大丈夫なのでしょうか？また楽しみにしています。

ここからは子どもたちです。

こんにちは。あけび、ありがとうございます。甘かったです。幼虫みたいでまずいかなと思いました。食べてみるとすごく甘くておいしかったです。ありがとうございました。

あけび、一粒しか食べなかったけど、まあまあでした。田んぼまだありますか。また田んぼで遊びたいので、また行きます。今日は台風だったけど、きてくれてありがとうございます。これからもお元気でいてね。

(Mさんよりのメル)

里山倶楽部自然農場日記 12月号 NO11

あっという間にこの日記も12月号を迎えました。「ちゃこーる」2月号から投稿始めさせていただいたのですが早いものですね。何だかんだとぐたぐた書きつづってきましたが、皆様読んでくれますか〜？ 来年も性懲りもなく、人様の思いも無視してどんどん書き続けますよ。皆様御覚悟のほどを。

「うあー、すげー」突拍子もない声で興奮して叫んでいるのは僕と農場お手伝いに来てくれたAさん。生まれて初めてのレンコン掘り。真っ黒な泥の中を手探りで探しやっど堀上げた大物レンコン。まさかズブの素人がこんなりっぱなレンコンを手に入れようとは思いませんでした。まさに幼稚園の子供たちがサツマイモを掘って興奮しているのと同じなんです。人間の感情って、歳は関係ない。幼稚園児も60過ぎのおっさんも感じることは一緒なんですね。このレンコン、里山倶楽部が管理するタニの棚田で栽培されたものです。去年まではお米を作っていたのですが、水が抜けずひどい泥田でまともなお米ができませんでした。大亦さんと無い頭で考え抜いた挙句に出てきたのがレンコン作りでした。大亦さんも僕もあまり先のことを考えないで動き出すB型人間。案の定レンコンが立派になったのはいいんですがどうやって掘ったら良いか分からない。レンコン堀の苦労話はまたの機会に。

今回はお話ししなければならないことがもう一つ。「鈴木さん、無農薬で栽培してるけど害虫に対してどんな方法で対処してるのか教えて欲しい。」以前「ちゃこーる」8月号にも書きましたが、今回は具体的にどんな方策で対処しているかを簡単に書いてみます。はっきり言って自然農場が完全に害虫対策ができているわけではありません。この冬野菜でも白菜なんかダイコンサルハムシにやられっぱなしです。巻いてきたので、そろそろお客様にお届けできるのですが、あまりの虫食いでお客様もビックリされるのでは？ でも全体的には今のところ何とかやれているのではと思っています。大事なことは、虫が発生してはおしまいです。当農場では発生した虫はあまり捕りません。捕りたいのですが捕っている時間がありません。ポイントは虫が発生しない環境、土作りが一番大切だと考えています。ではどのような土になら虫がいないのでしょいか。一番大事なことは、極論ですが肥料をやらないことです。でもお客様に食べてもらうには少しは格好が良くなければなりません。だからやむを得ず、できるだけ少なく施肥します。多すぎると虫が発生します（理論的なことは8月号をお読みください）。動物性肥料は気をつけねばなりません。特にチッソ分の多い鶏糞は要注意。次の対策は防虫ネット。アブラナ科の野菜は必ずネットをはります。ヨトウ虫はいい土になれば発生しませんが止むを得ず発生した場合はフェルモントラップ。これはメスのフェルモンの匂いを利用してバカなオスをおびき寄せて一網打尽。オスがなくな

れば子孫は存在しません。等いろいろ努力してますが、手に負えないのもあります。例えばオクラのハマキムシ、ナスのテントウムシダマシ等。何べんも言いますが害虫対策の基本は土にあるということです。人間、肥料をたくさんやればいい野菜が採れると思いがち。それが落とし穴なんです。肥料が多ければ多いほど虫が喜びます。世の中そんなに単純ではないということです。

お客様からのお便り

本日はお疲れ様でした。蓮根掘り、けっこう面白かったです。早速いただきました。美味しかったです。有り難う御座いました。

(Aさんよりのメール)

今回配送して頂いた分は、とても盛り沢山でとても有り難かったです。レモン、カリン欲しいと思っていたので嬉しいです。大事にいただこうと思っています。

(Uさんより)

毎回今回はどんな野菜が入っているのかなと楽しみに箱をあけています。ていねいに梱包されていて、野菜を大事に取り扱っている様子が伝わってきます。毎回こんな野菜を頂けて本当にうれしいです。

(F様よりのFAX)